



リニューアル記念特別展

1st Anniversary of Museum Renovation Exhibition:

信長と

クアトロ・ラガッツィ

桃山の夢と幻

+

杉本博司と

天正少年使節が見た

ヨーロッパ

Nobunaga and Quattro Ragazzi:
Hopes and Illusions of the Momoyama Renaissance

+

Europe through the Eyes of
Hiroshi Sugimoto and the Tensho Embassy

2018年10月5日|金| - 11月4日|日|
MOA美術館

主催: MOA美術館
助成: 芸術文化振興基金

展覧会概要

MOA美術館は、2017年2月5日に杉本博司と榊田倫之の主宰する新素材研究所の建築意匠によってリニューアルしました。これを記念して、2017年秋にニューヨークのジャパン・ソサエティーで開催された「Hiroshi Sugimoto: Gates of Paradise」展にて展観された作品「クアトロ・ラガッツィ」を日本で初公開いたします。

クアトロ・ラガッツィとは、1582年にローマ教皇のもとに派遣された4人の天正少年使節のことで、西洋美術史家・若桑みどり著『クアトロ・ラガッツィ』（集英社）の書名に因んでいます。

本展ではこの他、天正少年使節に関する資料やキリシタンの美術と工芸、そして近世日本を切り開いた織田信長に関わる作品を展観し、華やかな桃山時代の文化と美術を概観いたします。



重文 織田信長自筆感状 天正5年(1577) 永青文庫蔵

会期：2018年10月5日|金|－11月4日|日|

会場：MOA美術館 展示室1-6

〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557(84)2511 URL: <http://www.moaart.or.jp>

開館時間：午前9時30分－午後4時30分(入館は午後4時迄)

休館日：木曜日(11月1日は開館)

観覧料：一般 1600(1300)円 / 高大生 1000(700)円・要学生証 中学生以下無料 / 65才以上 1400円・要身分証明

※()内は10名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者(1名のみ)半額

※前売り券は、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクス)、チケットぴあ、イープラスでもお求めいただけます。

交通：JR東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車、駅前バスターミナル⑧番のりばよりMOA美術館行約7分終点下車

桃山の夢と幻
信長と
クアトロ・ラガッツィ

信長と近世の扉

近世日本の開幕は、1543年、ポルトガル人の種子島漂着に始まります。織田信長(1534-1582)は、この時にもたらされた鉄砲をいち早く駆使して天下布武を進めると共に政治、経済、文化にわたる近世社会を出現させました。その背景には、東方布教を夢見たイエズス会宣教師によって伝来したキリスト教と西欧文明がありました。

天正10年(1582)、信長は天下統一を目前にして本能寺で死没しましたが、その4ヶ月前に九州のキリシタン三侯は4名の少年使節をローマに派遣しました。少年使節は、末期ルネサンスを眼の当たりにした希有な日本人でしたが、8年後に帰国した時、豊臣秀吉(1537-1598)によって伴天連追放令が出され、キリスト教の布教は禁止されていました。しかし少年使節の持ち帰ったヨーロッパの知識と印刷技術は、その後の日本文化に大きな影響を与えました。



重文 世界図屏風 江戸時代 17世紀初期 神戸市立博物館蔵

信長と茶の湯

信長は、天文3年(1534)に尾張那古野城に生まれました。青年時代は、異風な風体や粗暴な振る舞いから「大うつけもの」と呼ばれましたが、永禄3年(1560)桶狭間の戦いで今川義元を倒して武将としての才覚を発揮すると破竹の勢いで天下統一を進めました。永禄11年(1568)、信長が上洛すると、畿内で勢力を伸ばしていた武将・松永久秀(1508-1577)と堺の豪商今井宗久(1520-1593)は直ちに信長に臣従を示し、久秀は九十九髪茄子茶入を、宗久は松島茶壺を献上しました。1569年、信長は上京町衆の「唐物天下の名物」の買い上げを命じました。世に言う「名物狩り」です。

この展覧会では、信長が所持した初花茶入、松花茶壺、金花茶壺、勢高肩衝茶入、牧谿筆・遠浦帰帆図、伝牧谿筆・叭々鳥図など錚々たる名物茶道具を展観します。



重文 唐物肩衝茶入 銘 初花(大名物)
中国 南宋~元時代 13~14世紀
公益財団法人徳川記念財団蔵



重文 織田信長像 古溪宗陳賛 天正11年(1583)
神戸市立博物館蔵

天下普請—安土城

信長は、天正4年(1576)から自らの居城として安土城を築き始めます。『信長公記』によると、天守は外部五重、内部七階の構造で、座敷は金碧極彩色の障壁画を狩野永徳に描かせ、柱は全て黒漆塗でした。最上階の画題は、三皇五帝や竹林七賢など儒教的なもので、下層には釈迦説法図、仙人・西王母など、儒仏道の三教が選ばれました。襖絵の制作にあたった永徳は、初期狩野派の山水図を極彩色の絢爛豪華な画風に転化させました。「花鳥図押絵貼屏風」や「洛外名所遊楽図屏風」は、永徳の大胆で華麗な安土城の障壁画を窺わせます。またシルルヴォアが著した『日本の歴史』には、当時来日した外国人が見た安土城が描かれています。



花鳥図押絵貼屏風 狩野永徳 桃山時代 16世紀 個人蔵

天正少年使節

信長が本能寺で没した天正10年(1582)日本巡察師ヴェリニャーノは、ローマ教皇のもとに九州のキリシタン三侯代理の使節を派遣することを企画しました。有馬のセミナリオから、正使として大友宗麟の名代・伊東マンショ、有馬・大村両家の名代・千々石ミゲル、副使に中浦ジュリアン、原マルチノが選ばれました。使節派遣の目的は、西欧社会に日本布教の成果を知らせ、その理解と経済的援助を得ることでした。

1582年2月20日、少年使節は長崎を出港し、マカオ、マラッカ、ゴアを経て1584年8月にリスボンに到着しました。一行は、スペインの首都マドリードの王宮でフェリッペ2世からヨーロッパ諸侯と同等の礼遇で迎えられました。翌年3月ローマに到着し、ローマ教皇グレゴリオ13世(1502-1585)に謁見しました。少年使節はその後訪れたイタリアの諸都市で熱烈な歓迎を受け、1585年だけでも48種の出版物が作製されました。

少年使節は1588年にマカオに帰港しましたが、その前年に秀吉が伴天連追放令を発していました。1590年、少年使節一行はインド副王の使節として帰国が許されました。長崎を出帆してから実に8年5ヶ月の歳月が流れていました。



天正遣欧使節肖像画
1586年 アウグスブルク刊
京都大学附属図書館蔵

キリシタンの美術と工芸

左) 重文 聖フランシスコ・ザビエル像
江戸時代 17世紀初期
神戸市立博物館蔵



右) 悲しみの聖母図
16世紀末～17世紀初期
南蛮文化館蔵



少年使節が日本に果たした文化史上の最大の功績は、洋式印刷機と印刷技術の請来でした。1590年から『ドチリーナ・キリシタン』、『聖教精華』、『ヒデスの導師』などを印刷し、その刊行物は「耶穌会版」「きりしたん版」と呼ばれました。少年使節が持ち帰った書籍や図版、地図帳、一枚摺の版画をもとに夥しい数の銅版画や経典が印刷されました。

キリスト教の普及拡大に伴い、輸入品だけでは需要を満たすことができず、1560年代から日本人による欧風作品の制作が始まりました。イエズス会は、各国に学院を設立する方針を打ち出し、日本でもヴァリニャーノがセミナリオ、コレジオ、ノビシャドを積極的に設置しました。セミナリオでは、神学、ラテン語の他に西洋画法、木炭画や銅版画なども教えられました。このような絵画は、初期洋風画と呼ばれています。「洋人奏楽図屏風」は、我が国に伝来する初期洋風画の代表作で、宣教師がもたらした西洋画を拡大して描いたものです。

宗教画の多くは、キリスト教の迫害の下で消滅しましたが、潜伏キリシタンに秘蔵されて今日に至る遺品が知られます。高山ジュスト右近の領地であった高槻周辺から「聖フランシスコ・ザビエル像」が発見され、福井藩の藩医邸から「悲しみの聖母」が発見されています。

特筆すべきものに「南蛮屏風」があります。豊臣秀吉が朝鮮出兵に際し肥前名護屋に築城した城の壁画を描くために下向した際、狩野派の絵師が1593年に長崎を訪れて写生したのが始まりと伝えられ、その盛期は1593年から1630年です。画題は、カピタン一行の航海、日本上陸、行列、日本の教会が描かれ、南蛮人渡来図屏風などの類品が現在100点ほど確認されています。

キリストの身体とされる聖体(ホステア)をはじめ聖餅箱、聖龕、コンタツ(ロザリオ)、メダイなどキリスト教用具が日本で制作されました。「イエズス会紋章入蔦蒔絵螺鈿聖餅箱」は、山口県萩市で発見され、原城跡から出土したヨーロッパ製「黄金の十字架」は、天正遣欧使節がローマ教皇から託されて有馬晴信にもたらしたと伝えられます。

都ではキリシタンでないものまでもが木製のロザリオをかけ、十字架を下げてラテン語の祈祷をしながら出歩くと云った南蛮風俗が定着しました。「清水寺図屏風」には、南蛮風俗の若武者が清水寺で花見に興じている姿が描かれています。



重文 洋人奏楽図屏風 桃山時代 16世紀 MOA美術館蔵

ヨーロッパ
天正少年使節が見た
杉本博司と

天国の扉——日本と西欧の十字路

2015年の春、私は生涯の仕事として取り組んできた劇場の撮影のため、ヨーロッパ各地を巡っていた。私はヨーロッパのオペラ劇場の最古の姿を今に留める、アンドレア・パラディオ設計になるテアトロ・オリニコを訪れた。ヴェネト地方のヴィチェンツァにあるこの劇場の内部は、無数のギリシャ風彫像で装飾され、ロビーにも美しいフレスコ画が天井回りに描かれていた。劇場の支配人は私にこのフレスコ画の一面を指差し、この絵は1585年の劇場開館の年に、日本からの使節がローマへの途路、ここに立ち寄って歓迎を受けた場面を描いたものだと言われた。よく見ると日本人らしき4人が最前列に描かれている。私はこの4人が天正遣欧少年使節であることを知った。

俄然、私は少年使節のイタリアでの足跡に興味を覚え、その足取りを探ってみると、リボルノから上陸しピサからフローレンス、シエナを経てローマへ、その後アッジジからベニスへと向かっている。私はローマのパンテオン神殿もピサの斜塔もシエナの大聖堂も撮影している。これらの建物は少年使節が来た時にはすでにあつた建物だ。私は偶然にも少年達が見たその建物を私も自分の眼で今見ているのだということに気が付いた。私は遙かな時代の彼方から声を聞いたような気がした。「私達が見たこのヨーロッパの風景を、今一度あなたにも見てもらいたい」という声を。その声は冥界からの声なのか私の心の声なのか、どこかで響き合い、木霊となって聞こえてきた。

私は今まで偶然にも辿った少年使節の足跡に加え、意図的にさらにその足跡を尋ね撮影を続けることにした、偶然が必然をうながしたのだ。400年以上の歳月が過ぎ去った今、どこまで当時の姿が再現できるかは不明だ、しかし私は人気の無い満月の下の深夜のパルテノン、閉館中の城館ヴィラファルネーゼの螺旋階段室、夜明け前のフィレンツェ大聖堂、そして今は博物館に展示されている初期ルネッサンスの名品「天国の扉」を、休館日に人の気配無しに撮影することに成功した。

ローマ法王グレゴリウス13世は、天正少年使節をキリスト生誕時に東方から博士が来訪してキリストを礼拝した秘跡の再来として迎えた。日本人が初めて知る西洋、そして西洋人が初めて知る日本。私の血の中には四百数十年前の双方の驚きが、未整理のままに流れている。私は私の精神の出自を訪ねて、目視確認の為の旅をまとめ、ここに展覧会としてお披露目する。

杉本博司



「ピサの斜塔」2014年



「パンテオン、ローマ」2015年



「天国の門01、アダムとイブ」2016年

杉本博司 | すきもとひろし

1948年東京生まれ。立教大学卒業後、1970年に渡米、1974年よりニューヨーク在住。精緻な技術の銀塩写真作品は世界中の美術館に収蔵される。近年は執筆、設計、能、浄瑠璃の演出などに活動の幅を広げる。主な受賞歴は、2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年紫綬褒章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ、2014年第一回イサム・ノグチ賞、2017年文化功労者。

関連企画

杉本博司・山田五郎対談「天正遣欧少年使節について」

モデレーター：鈴木芳雄

日時：2018年10月5日(金) 15:00-16:00

会場：MOA美術館 能楽堂

料金：無料(入館料は別途必要)

新作能「天正少年使節」

日時：2018年10月27日(土) 13:30 開演

会場：MOA美術館 能楽堂

出演：伊東マンショ シテ方金春流 櫻間右陣

千々石ミゲル 阪本昂平

原マルチノ 真茅俊太郎

旅人 館田善博

船頭・中浦ジュリアン 善竹大二郎

新作仕舞 「宗麟」 櫻間右陣

狂言 大蔵流「茶壺」 善竹十郎

料金：(全席指定・入館料込)

A席 7,800円(友の会 6,800円) B席 6,200円(友の会 5,200円) C席 4,500円(友の会 4,000円)

学生席 3,500円(学生証提示)

チケットに関するお問い合わせ：0557-84-2500(MOA美術館 能楽堂)

千宗屋氏による南蛮茶会

日時：2018年11月3日(土・祝) 10:00-15:30

内容：薄茶席、展観席、点心席

会場：MOA美術館 茶室一白庵

* 点心は以下の3つからお選びいただけます。

1. カフェレストラン・オーミラドー(フレンチ) 15,000円

2. そばの坊(そば) 14,000円

3. 花の茶屋(和食) 14,000円

* MOA美術館友の会会員、随縁茶話通年会員は、2,000円割引致します。

お問い合わせ：0557-84-2531(学芸課)

シンポジウム『杉本博司と探す! 幻の安土城図屏風』

日時：2018年10月6日(土) 13:00-15:00

会場：MOA美術館 能楽堂

パネル：杉本博司、パオラ・カヴァリエリ、新保淳乃、山本英男 他

モデレーター：橋本麻里

料金：3,000円(入館料込・チケットびあにて販売予定)

広報画像をご希望の方は、必要事項をご記入のうえ、MOA美術館までFAXにてお申し込みください。

FAX 0557-84-2570 MOA美術館 広報宛て

広報画像申込書

MOA美術館 広報画像を希望します。

貴社名

ご所属

お名前

ご住所

TEL

FAX

E-mail

媒体名

掲載予定日/放送予定日

年 月 日 発売/放送予定

掲載概要、予定文字・ページ数など
(お分かりになる範囲でお願いいたします。)

貸出し希望画像番号

広報画像



1



2



3



4



5

[1] 重文 織田信長像 古溪宗陳賛 天正11年(1583) 神戸市立博物館蔵

[2] 重文 洋人奏楽図屏風 桃山時代 16世紀 MOA美術館蔵

[3] 重文 唐物肩衝茶入 銘 初花(大名物) 中国 南宋~元時代 13~14世紀 公益財団法人徳川記念財団蔵

[4] 重文 織田信長自筆感状 天正5年(1577) 永青文庫蔵

[5] 杉本博司「螺旋階段II、ヴィラ・ファルネーゼ」2016年 ゼラチン・シルバー・プリント ©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi

MOA美術館

広報担当: 大塚/中間

TEL 0557-84-2567

Email

m-otsuka@moaart.or.jp

m-nakama@moaart.or.jp

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべてMOA美術館を紹介する場合に限りです。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記します。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行います。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記入いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。